



東京芸術祭2020 芸術監督 国際オンライン・ミーティング レポート

Tokyo Festival 2020 TMT Autumn Selection Special Edition  
Artistic Directors International Online Meeting Report



SESSION 1 「舞台芸術家は今、何をめざすか」

SESSION 2 「世界の芸術祭の今、そしてこれから」

コロナ禍の中、世界の舞台芸術をけん引する芸術監督がオンラインに集合して議論を繰り広げた。  
それぞれの舞台芸術への思いは？

身体、経済、移動、物流、文化芸術など、人間のあらゆる活動に制約を及ぼす新型コロナウイルス。この厄災がもたらしたネガティブな影響は計り知れないが、その狭間で、こんな奇跡をもたらしてくれた。本来なら忙しく地球上を飛び回っている第一線の演劇人が、因らずもコロナ禍で自国に留まっているため、夢のようなオンライン座談会が実現した。東京芸術劇場の芸術監督、野田秀樹がホストとなった賛沢なセッションは、異なるメンバーと2回にわたって行われ、YouTubeの〈芸劇チャンネル〉で公開された（現在は終了）。それぞれの舞台芸術への思いが、作品ではなくダイレクトな言葉で語られた貴重な内容をダイジェストでレポートする。

セッション1のテーマは「舞台芸術家は今、何をめざすか」。メンバーは、劇場の芸術監督兼演出家の4人で、フランスのシャイヨー劇場からディディエ・デシャン、ドイツのシャウビューネからトーマス・オスターマイアー、オランダのインターナショナル・シアター・アムステルダムからイヴォ・ヴァン・ホーヴェ、そして野田、司会は世界的に活躍する演劇評論家のオクタビアン・サイウが担当した。

まずパンデミックに関しては、オスターマイアーが「かなりの危機感がある。特に経済的な面と、フェスティバル・メイカー（演劇祭の

仕掛け人）としては海外アーティストを招聘できない点が非常に厳しい」と正直に吐露。ヴァン・ホーヴェも「ロックダウンの時期は国ごとに異なるが、直面している問題はみな同じ」と共感した。しかし悲観ばかりでないのも共通点で、オスターマイアーが「観客はとてポジティブ。満員の劇場にまた戻るのを待つと言ってくれている」、デシャンも「この数カ月で強く感じたのは、私達の普段の活動が観客にとっていかに重要か。たとえ自宅に家族といっても人間には外とのつながりが必要で、劇場はそこで大きな役割を果たす」と発言した。今後の展開という話題ではネット配信について意見が交わされた。早くから劇場のレポーターを配信したヴァン・ホーヴェは「それらの舞台映像は、家から出られない人々の慰めになっただけでなく、将来の観客も増やした」と語った。一方、他国より早く規制緩和がされた日本で『フィガロの結婚』の再演を成功させた野田は「オペラなのにブラボーと言うことも禁じられた客席から、最初は緊張していた空気がやがて感動の熱気になっていくのを感じた。この状況ではやむを得ないが、やはり劇場での演劇という太い幹があり、オンラインはあくまでもそこから派生するもの」と実体験を含めた意見を述べた。ヴァン・ホーヴェの「演劇やダンスによって人が集まるのは一種の儀式。儀式とは、葬式にしる記念

日にしろ、それを通して未来に希望を抱くもので、人間には必要だ」に全員がうなずいた。  
セッション2のテーマは「世界の芸術祭の今、そしてこれから」。著名な演劇祭であるルーマニア・シビウ国際演劇祭のディレクター、コンスタンティン・キリアック、台湾 国家两厅院のアン・リユー、野田、司会にはセッション1に続いてオクタビアン・サイウ。当初の予定を急遽オンラインに切り替えて今年のフェスティバルを敢行したキリアックが「10日で104カ国から約200万の閲覧があった。これは、インターネット上でも大勢の人と一緒に感じられる反応」と発言。芸術祭の将来のあり方は？の問いにリユーは「私達は自由や想像力のスポークスマン。フェスティバルでそれを伝えていきたいし、若いアーティストには、単に劇場を使うのではなく台湾そのものと積極的に関わってほしいと言っている。なぜなら人生について考えるのが芸術だから」と述べた。野田は「変わるのは表現者としては当然。誰もやらなかったことに挑むのが表現者だから。ただ、何か新しい技術を使って変化しないと演劇が生き残れないとはまだ思えない。これからの芸術祭も、自分達や先人が積み上げてきたクオリティをもう少し信じて続けていきたい」と締めくくった。

文：徳永京子（演劇ジャーナリスト）

〈芸劇チャンネル〉にて無料配信 言語：日本語、英語の2チャンネル  
配信期間：2020年11月24日(火)～12月7日(月)  
制作進行：合同会社syuz'gen 企画制作：東京芸術劇場

ホスト・パネリスト：野田秀樹 Noda Hideki (東京芸術劇場)

モデレーター：オクタビアン・サイウ Octavian Saiu (演劇評論家)

SESSION 1 「舞台芸術家は今、何をめざすか」

ゲスト・パネリスト：

ディディエ・デシャン Didier Deschamps (パリ・シャイヨー劇場)

トーマス・オスターマイアー Thomas Ostermeier (ベルリン・シャウビューネ)

イヴォ・ヴァン・ホーヴェ Ivo van Hove (インターナショナル・シアター・アムステルダム)

SESSION 2 「世界の芸術祭の今、そしてこれから」

ゲスト・パネリスト：

コンスタンティン・キリアック Constantin Chiriac (シビウ国際演劇祭)

劉怡汝 (アン・リユー) Yi-Ruu LIU (台湾 国家两厅院)

ビデオ・メッセージ：

マーク・ボール Mark Ball (マンチェスター国際芸術祭クリエイティブ・ディレクター)

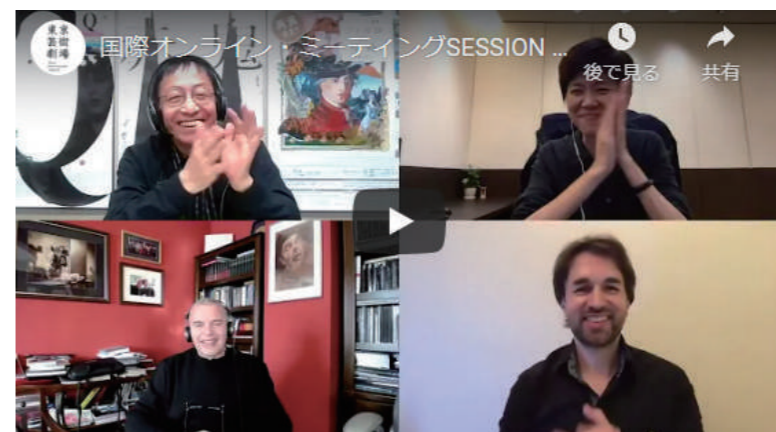
ティサ・ホー Tisa Ho (香港芸術節エグゼクティブ・ディレクター)

ダミアン・ジャレ Damien Jalet (振付家、シャイヨー国立劇場アソシエイトアーティスト)

ロベール・ルパージュ Robert Lepage (演出家・劇作家・俳優、エクス・マキナ芸術監督)

シルビウ・プルカレーテ Silviu Purcărete (演出家)

ミア・ユー Mia Yoo (ラママ実験劇場芸術監督)



HOST PANELIST

Noda Hideki



野田秀樹

SESSION 1

Didier Deschamps



ディディエ・デシャン

Thomas Ostermeier



トーマス・オスターマイアー

Ivo van Hove



イヴォ・ヴァン・ホーヴェ

SESSION 2

Constantin Chiriac



コンスタンティン・キリアック

Yi-Ruu LIU



劉怡汝 (アン・リユー)

MODERATOR

Octavian Saiu



オクタビアン・サイウ